

## 白檀塗具足

徳川家康公（1542-1616）は、若い頃、金色に輝く鎧兜で知られていた。この鎧は、最初の鎧が破損したときのために予備として作られたものである。1500年代後半に作られた鎧の典型的なものである。胴体の前後を覆うしっかりとした丸い板は、当時よく使われていた銃器から身を守るためのものである。2枚のプレートは、左側は蝶番で、右側は紐でつながっている。紐はほとんどが交換されているが、胴体の紐はオリジナルである。この鎧は他の鎧と異なり、透明な漆が塗られており、オレンジ色に近い豊かな黄金色をしている。

## 重要文化財